

理学療法士作用療法士養成施設指導ガイドライン 2 (7)

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	人	人	人	人	人	6人	7人	人	38人	15人	
計	人	人	人	人	人	6人	7人	人	38人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼任)	
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	自然科学概論	15	小原 正 他	兼任	
		統計学	15	藤堂 庫治	専任	
		基礎学習論	15	小野 佳子	専任	
		保健体育	15	松田 正巳	兼任	
		医学英語	15	藤堂 庫治	専任	
		情報科学	8	藤堂 庫治	専任	
		ボランティア論	15	青柳 省吾 他	専任	
		コミュニケーション論Ⅰ	8	小野 佳子	専任	
		コミュニケーション論Ⅱ	8	小野 佳子 他	専任	
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	運動機能解剖学	30	加藤 正裕 他	兼任	
		解剖学	30	加藤 正裕 他	兼任	
		体表解剖学	15	吉澤 利夫 他	専任	
		解剖学演習	15	青柳 省吾 他	専任	
		基礎解剖生理学Ⅰ	15	吉澤 利夫 他	専任	
		基礎解剖生理学Ⅱ	15	吉澤 利夫	専任	
		生理学Ⅰ	15	能勢 博	兼任	
		生理学Ⅱ	15	中澤 功 他	兼任	
		生理学実習	15	能勢 博 他	兼任	
		運動学Ⅰ	15	吉澤 利夫 他	専任	
		運動学Ⅱ	15	木島 隆 他	専任	
		運動学演習	15	木島 隆 他	専任	
		臨床運動学	15	木島 隆	専任	
		人間発達学	15	佐藤 陽子 他	兼任	
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学概論	15	川口 研二 他	兼任	
		臨床心理学	15	安里 勝人	兼任	
		内科学	15	川口 研二 他	兼任	
		整形外科	15	穂苅 行貴	兼任	
		脳神経内科学	15	井上 敦 他	兼任	
		精神医学	15	松本 武典	兼任	
		小児科学	15	岩崎 康 他	兼任	
		公衆衛生学	15	青柳 省吾 他	専任	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	15	村松 秀明 他	専任	
		リハビリテーション概論	15	村松 秀明 他	専任	
		保健医療福祉概論	15	小野 佳子	専任	
		社会福祉学	15	宮澤 優一	兼任	
	専門	基礎理学療法学	理学療法概論	15	村松 秀明	専任
			基礎実習	23	小野 佳子 他	専任
			運動療法学総論	30	青柳 省吾	専任
			理学療法研究法	15	木島 隆	専任
			臨床技術セミナー	23	青柳 省吾 他	専任
			総合理学療法セミナー	15	小野 佳子 他	専任
理学療法管理学		理学療法教育論	15	小野 佳子	専任	
		医療管理学	8	青柳 省吾	専任	
理学療法評価学		理学療法評価学Ⅰ	15	塩澤 崇	専任	
		理学療法評価技術論Ⅰ	30	塩澤 崇 他	専任	
		理学療法評価学Ⅱ	15	塩澤 崇 他	専任	
		理学療法評価技術論Ⅱ	30	塩澤 崇 他	専任	
		臨床評価学	15	藤堂 庫治	専任	
		臨床評価実習	23	村松 秀明 他	専任	
理学療法治療学		骨関節機能障害学Ⅰ	30	吉澤 利夫 他	専任	
		骨関節機能障害学Ⅱ	30	吉澤 利夫 他	専任	
		脳神経機能障害学Ⅰ	30	木島 隆 他	専任	
		脳神経機能障害学Ⅱ	30	木島 隆 他	専任	

		内部機能障害学Ⅰ	15	小野 佳子 他	専任
		内部機能障害学Ⅱ	30	小野 佳子 他	専任
		発達機能障害学	15	鈴木 芳則 他	兼任
		物理療法学Ⅰ	15	藤堂 庫治	専任
		物理療法学Ⅱ	15	藤堂 庫治	専任
		義肢装具学Ⅰ	15	齋藤 文樹	兼任
		義肢装具学Ⅱ	15	青柳 省吾	専任
		日常生活活動論Ⅰ	8	青柳 省吾	専任
		日常生活活動論Ⅱ	15	青柳 省吾	専任
		理学療法技術論	15	小野 佳子 他	専任
		理学療法特論	8	村松 秀明 他	専任
	地域理学療法学	地域リハビリテーション論	15	塩澤 崇	専任
	地域理学療法学	生活環境論	15	青柳 省吾	専任
	臨床実習	見学実習	23	藤堂 庫治 他	専任
		評価実習	68	塩澤 崇 他	専任
		総合臨床実習Ⅰ	172	青柳 省吾 他	専任
		総合臨床実習Ⅱ	172	青柳 省吾 他	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法見学実習	1年後期	コミュニケーション論Ⅰ	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法概論	1年前期
理学療法評価実習	2年後期	医療管理学	1年後期
		理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価技術論Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価技術論Ⅱ	2年後期
		臨床評価実習	2年後期
臨床理学療法実習ⅠおよびⅡ	3年前期・後期	運動療法学総論	2年前期
		骨関節機能障害学Ⅰ	2年前期
		骨関節機能障害学Ⅱ	2年後期
		脳神経機能障害学Ⅰ	2年前期
		脳神経機能障害学Ⅱ	2年後期
		内部機能障害学Ⅰ	2年前期
		内部機能障害学Ⅱ	2年後期
		発達機能障害学	2年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己評価委員会
委員名（委員長）	村松 秀明
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	・ 学生の授業評価結果の分析
	・ 教職員による自己評価結果の分析
	・ 自己評価結果に対する報告書の作成および公表
	・ 学校関係者評価委員会の開催
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://syoujyu-g.ac.jp/reha/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会
	委員構成等	学校長、学科長、教職員、業界団体・職能団体・地方公共団体の役職員、学会や学術機関等の有識者、企業や関係施設の役職員
	改善の仕組みの実際	必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（講義の開設や講義内容・方法の改善・工夫等を含む）に活かしている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価報告書を、学生保護者・卒業生代表・企業や関係施設に役職員からなる学校関係者評価委員会にて報告し、第三者的な観点で委員の方々から学校運営に関する指導、助言をいただくようにしている。それにより、次年度に反映させるよう努めている。

また、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受け、指導内容を共有して改善に努めている。